觀照

1

創作劇待望……利倉幸一

新劇作家の動向……諸　家

お愛さんの舞をほめる……高安吸江

古靱の「宿屋」……武智鐵二

万佐世、猶義兩氏に……沼　艸雨

「肉体と幻想」評……林　秀雄

創作劇待望

利倉幸一

終戰後既に一年に及んでゐるが、脚本活動の不振は依然として甚だしい。

創作脚本待望のことの叫ばれてゐるのは、敢えて最近にのみ喧しいことではなく、實にこの要望は、この國の新演劇運動胎動の時よりしてあつたので、その後も周期的にと言つてもよい程繰返されて來てゐるのであるが、ぼくは今日に於けるこの要望を、かつての時期に叫ばれた聲と同一義、同一視することは出來ないと思ふのである。且は、今日に於てこそ、かく反復せしむるに止めてゐた隘路と見なされてゐた諸問題を打破し、解決しなかつたならば、今後は愈々その隘路を更に狹小せしむることにならうと恐慎するのである。

ぼくが、特に「この時」を言ふのは、作家の創作精神のさかんなる燃燒を俟つべきといふ謂のあるのは言ふまでもないが、ぼくの意味するところは、そのほかにもあつて、即ちこの無血社會革命の行はれつゝあるこの情勢下に於て、亦、遲々としたもどかしい歩調ではあるが、進行しつゝある演劇界の變革期の機運の醸成に際して、脚本と、脚本製作者の權威と位置を確保せしむべきだといふことにある。

そして、亦、客觀的情勢も、惡税入場税の重壓と映畫興行の攻勢から極度の不良に追ひ込まれた演劇興行は、いよいよ企劃を重要視させるに到つた。その當然の歸結として、俳優その他の出演者の按配と、脚本の採擇に重點が置かれてゐるのである演劇に於ける脚本が第一に位置すべきといふ、初等演劇教科書第一課が興行上の追ひつめられた要求によるつまり正しい理解に樹つものでないにもせよ、その運行のかたちが正常な線に沿つたことは、一應喜んでよいことであらう。

しかし、それ以上に、現在の演劇經營のありかたに不滿と疑問を有ちこれの改革されるべきの當然を信じまた改革すべきは實に「この時」であると信じてゐるぼくは、先づ演劇經營のありかたを正當なるものに匡して、そこに立脚して、脚本と、脚本製作者の權威と位置を、當然さうあるべきものにしなければならないと考へるのである。

脚本と、脚本製作者の權威と位置の確立といふことの、具体的なるあらはれとして、先づ求められるのは經濟條件の改善向上である。

先づそれが完遂されることによつてのみ、よき脚本、よき作家が生れると速斷するのは、少なからず簡單な公式であり、功を急ぐものであつ

て、この問題の打解はそのやうな容易なものでないのは明らかである。更には亦、それでは作家の藝術家として矜誇をあまりにも顧慮しない言説とも釋られるのでめるが、しかし今日の現實の問題として、これは何よりも重視すべきであり、演劇經營の改革に際して特に聲を大にすべきであると思ふのである。

演劇に於ける脚本の位置は一應上昇し、重視されるに到りつゝあるとは言ふものゝ、それは興行上の投資、としての結果であつて、眞の演劇に於ける當然なありかたとは未だ言ひ難いものがあり、殊には急落せる貨幣價値との比率などを對照するならば、その經濟條件は正しくは上昇などとは言へるものではない。現在の演劇經營に於て劇當てられてゐる脚本、及びこれに類するものゝ經濟比率は、現實には殆んど上昇してゐないのである。脚本製作家は依然として現世に稀らしい仙人的存在なのである。

一体脚本製作家は何を喰つてゐるのであらうか。果してかすみを喰つてのみ生きてゐるとは考へられないのだが、そして亦、作家の誰もが莫大なる恒産を有つてゐるとも考へられないのだが、とすれば、作家が今日の收入を以つて生きてゐることは正しく現代の不可思議でなくてはならない。作家が一作を物することによつて、せめて三ケ月生活し得られたらと、このさゝやかな、まことにさゝさかな希ひを、脚本製作家は久しきに亘つて望み續けて來たのであるが、それは依然として夢なのである。藝術家の特典などとはおよそ遠いほかの世界の「噂」であつて、この國に於ける作家の特典は、光榮ならざる貧乏でしかないのである。

このやうな、慘めな生活を強いておいて、よき脚本を待望することは相當に強い心臓と言はなければならない。強いてゐないまでも、このやうな狀態のまゝに放置しておいて、すぐれた脚本を出現させようとするのは、隨分蟲のいゝ相談と言ふものである。こゝに到らしめたことは、獨り演劇經營者の貪慾のみに因るものではなく、その責の一半は、作家のこれらのことに就ての甚だしい無關心と、無關心と見せかけることを体面とした愚劣なるに因るのであつて、勿論、今日に於ては、その乘ぜられたる間隙と、謂れなき体裁は揚棄されようとしてゐる。遺憾ながら揚棄されたと言ひ得られないのは、未だにかすみだけでは生存出來ないと分つてゐながらも、その要求の表現に切實なるものが見られないからである。

最近に於て、漸く作家組合は結成され、强靭なる紐帶の力によつて、脚本に附せられたる不當極りなき比

率の是正、經濟條件の改訂による生活權の擁護が具体化しようとしてゐるのは、大いに慶賀すべきであつてこの組合の成立と今後の運行こそ、作家の生活を保證するか否やを卜するものであり、延ひては、この國の今後の演劇の成否を決するものと言ふも、過言ではない筈である。

短的なる要求として、脚本料の適正なる設定は刻下の急速を要することであるのは論を俟たないが、そこに全般的な睨み合はせが考慮されなければならない。若しその考慮が無視され、各の領域によつて、領域にのみ主眼を置いた要求が相次いで提出されるに於ては、劇場經營を危殆ならしむる事態の發生が豫想されるのである。こゝに於て、ぼくがはじめに、演劇經營のありかたを改革すべき「この時」なるを述べたことを想起して欲しいのである。

演劇興行者は各の領域よりする要求の過重なるより經營の成立ぜざるの故を以つて拒否する場合が十分豫想されるのであるが、その時に於て強く主張し得らるゝのは公正妥當なる要求であつて、演劇經營に於ける脚本、及びそれに類する數字の算定に、當然の權利を表現する限り、當然の勝利がもたらされるのである。演劇經營全般に於ける比率に於て、作家組合が正當なる要求を提出することは、單に作家の生活權擁護に止まらず、それは演劇の正しいありかたをはつきりと示すことでもある。

かくて、演劇に於ける脚本の在るべき位置は、經濟條件の確立とともに、明確にすることが出來るのである。

前述した如く、脚本不振の大半の因子は經濟條件の不良にあつたが、それが「大半」の理由であつたにしろ、何といつても作家個々の旺盛なる創作活動がなければならない。或ひは終戰後のあはたゞしい社會情勢や、個々の生活の煩雜と困難や、精神の亂調と動搖は、よき作品を創作すべき環境ではなかつたかも知れないが、それも既に終戰後一年に及んでゐる今日に於ては、怠慢を糊塗する遁辭と責められても仕方ない筈である。先づ第一の隘路であつた經濟的餘裕が約束せられて、依然傑作脚本が生れないとしたならば、……ぼくは、躊じてそれはあり得ないことだと信じてゐる。

同時に、ぼくは、劇團や演劇經營者の脚本に對する意慾の薄弱なるをも指摘しておきたい。脚本を待望する聲のみいたづらに高く、そこに打たれた手段として、今日までに大して見るべきものゝないことを言ひたい。少數の作家に依存する限りに於ては、或ひは熱意を示したやうであるが、眞に脚本を希望する手段として十分ならざる點が多い。

「現代劇のない演劇界」の奇妙なる現狀の打破のために、今少しく具体的なる提示を求められてゐたのかも知れないが、現在先つ作家組合の結成と、その後の運營を專らにすべきであると考へてゐるぼくには、その他の當面の具体策に明確なる構想を有たない。脚本市場の提唱の如き、あまりにも商業主義に歪曲されてゐる今日では、速かに行はれなければならない問題であり、さもなくも、遺憾ながら、まことに遺憾ながら、文學としての實の貧しさを露呈してゐる現狀の向上は望むべくもないのであつて、經濟的上昇とともに、併行して行はるべき文化的上昇の一方法として眞摯に檢討さるべきであらう。が、僅少なる紙幅は既に盡きた。たゞ、ぼくは組合の出發のみを以つて一切が解決されると、それ程に簡單に考へてゐないといふことを記して、餘は次の機會に委れたい。

（二一・八・二〇）

本文は利倉氏が京、阪地方視察に見えられた時御多忙中を創刊號トップを飾るため特にお宿で執筆を願つたもので同氏日頃の御抱負を充分に開陳していたゞくのには餘りに日數と紙數に制限がありすぎ、此の點同氏には甚だ申譯ない次第であつたが、このやうな新感覺の所論を得た事を嬉しくおもつてゐる。

金春光太郎還暦記念
金春會秋季別會
昭和二十一年十月十七日
午前八時始
於京都
金剛能樂堂

世紀の大能

翁
高砂　金剛巖
田村　梅若六郎
關寺小町　金春光太郎
蟬丸　寶生重英　野口兼資
鷺　喜多六平太
石橋　金春榮治郎　櫻間金太郎

御申込は
斷絃會
大阪市東區今橋二丁目一七

新劇作家の動向

一、目下執筆中の作品、又は執筆せんとする作品
二、上演希望の劇團
三、無名作家推薦

八木隆一郎

一、「黄色い帽子」――オペレッタ、「天狗三郎傳」――現代劇

二、「黄色い帽子」はわたしたちが以前關係してゐた日本樂劇協會・金曜會の復活公演のためのもの。作曲山田耕作氏、歌手や俳優は脚本作曲完成後に各方面の應援出演を求める豫定。

「天狗三郎傳」は現代劇ですが、寫實劇ではありません。映畫では失敗しましたが、わたしの「浦島太郎の後裔」的な試みを、こんどは演劇に於て爲さんとするのであります。「現代カブキ」の試作……といふのがわたしの心構へですが、どんなものになるやら、樂しくもあり、不安でもあります。どの劇團が上演するやら、アテなし。どこも上演しないでせう。不安ですから。

三、いまのところなし。これでいゝのでせうか。本當にこまります。

知切光歳

一、「猪の子まつり」といふのを戰災で、脱稿した儘燒けて了ひましたので改めて書いてゐます。「吳軍港」といふ長い連作物の第二話で第一話「左義長まつり」の續篇です。

二、私は應接が感情的でいけませんので、すべて上演などの交渉は友人たちが協議して、ほかつて吳れます。今度のものも、安藤鶴夫氏が然るべくやつて吳れることになつてゐます。

三、以前大阪浪花座で栗島澄子がやつた「ナポレオンの子」の作者檜垣外道のアイデアなどは珍重すべきでせう。

小山祐士

一、(A)時代を終戰前後にとり。家族制度を主題とした二百二三十枚の四幕物を、やつとこの月初めに完成し、續いて雜誌「叡智」の求めに應じて、戰時成金の代議士立候補者の家族の生活斷片をとりあげて「鶯の聲」といふ短篇を唯今書きあげました。

(B)「わが町」といふ假題のもとに終戰後の或る町の人達の生活を多幕物にして見たいと考へて居ります。また「塵まみれの貴族」と

いつた假題で、貴族風な生活を誇りとしてゐる社會事業家風な大ベテン師の生活を四幕物にして見たいと思つて居ります。

二、考へて居りません。

三、疎開して田舍住ひなので、さしあたり思ひ當らない事を大變殘念に思ひます。新劇界に、眞に新風を吹き込んで吳れるやうな新人が現はれて來なければならない、と思ひ續けて居ります。

堀江林之助

一、目下月餘にわたつて臥床してをります爲め、種々の計畫（例へば筑豐炭田發達史を主題とした多幕物）は一切見送らなければならぬ狀態にありますが、起床次第、歷史的な社會の必然に對して盲目的な我執に狂つてゐる群衆を一幕物に書きあげてみたいと思つてをります。

二、だいたい移動演劇のつもりですから、その劇團といふことになりませう。

菊田一夫

一、戰爭中から、そして敗戰後にかけて、日本人といふものが、如何に愚かしく、そして劣等な人種であつたか……（勿論、作者自身をもふくめて）……當然、敗けるべくして敗けた戰爭である……と言つた主題を、ある一町内の出來事として執筆中です、（作者自身の切りかへの道標として）……。その……笑ふ悲劇の題名「南京豆と勳章」

村山知義

一、二、新協劇團の第四十一回公演（七月上旬）のため、德永直作「太陽のない街」を脚色してをります。

三、無名作家とは云へませんが。

△久保達郎作「新樹」（薔薇座第一回公演臺本）は印刷されて讀まれてよいと思ひます。

△本田延三郎が新協劇團のため讀賣爭議を劇曲に書いてゐるのを期待してゐます。

水木洋子

一、執筆準備中「東京の人」

都會人が生活の違ふ農村に暮す一年間の複雜な變化。

農村の人たちとの美しき交流。互に懷まれ、親まれ、敎へられ、いつしか斷ち切れぬ緣が育づてゆく姿。

互に憎みあふ現實の中に高らかにこの詩を唄ひ度い。

二、勿論期待をしません。

三、今にあると思つてゐます。

阪中正夫

一、現在書いて居りますが、後一月はどうしてもかゝりさうです。數年振りで筆がのびるやうになりました。

二、上演に關しては考へてゐません

三、地方に住むやうになつて身邊にいゝ無名作家は居りません。

八田元夫

一、劇團の仕事、演出、それと打續く會合、研究所の講義等に忙殺されて、放送用の短篇以外、何も手について居りません。

二、もしまとまつたものがかけたら私の所屬する新協劇團に提出いたします。

三、私の主宰して居る演出研究所にも二三の劇作志望の若い人達が居りますが、まだ名乘り出るところまで到つて居りません、三好十郎主宰の戯曲研究會には大分期待できる人達が居るやうです。

和田勝一

一、(イ)牛飼ひの歌、四幕七場を劇詩として。

(ロ)農村もの(それも劇詩として)

二、民衆座。

三、古川良範、亀井兎夢

日本的現實の基礎に立つて、劇詩運動を展開します。右二君は目下それに精進中です。

佐々木孝丸

一、小生目下「日本新劇史」の論著に沒頭してゐますので、さしあたつての創作の具体的プランはもつてゐません。が、時々、今は演劇革新の歴史を書くべき時ではなく演劇革新の歴史を創るべき時であることを思ひ、やもたてもたまらなくなります。で、案外、歴史の發表を後廻しにして戯曲がさきに出來るかも知れません。

二、これは既に「無名」とは云へませんが、新進久藤達郎君の今後に大いに期待してゐます。五月「薔薇座」で上演した同君の「新樹」などは、舞臺の出來はとにかくとして、終戦後、今日までにあらはれた創作劇のうちでは、もつともすぐれた作品であつたと思ひます。

以上

三好十郎

一、作品は書いてゐます。長いものです。

二、どの劇團でといふ事は考へたこ

とがありません。發表の意慾が弱くなつてしまつて、さしあたり、たた書いてゐるだけです。

田口竹男

一、最近の仕事は、應召中の經驗を土臺に「海軍上等兵の生活記錄」として三幕物を嘗上げました。題は「幕舍」、なほ其外大阪協同劇團の依頼で野澤富美子原作「煉瓦女工」の京都辯脚色さいふのをやりました。これは六月下旬大阪京都で上演される筈。

二、「幕舍」はどこといつて當てなし何しろ薄汚ない老兵ばかり二十人も出る芝居なので。出來たら、東京の新劇團でやつて貰ひたく思つてゐます。

北條秀司

一、「四鶴」の町人物に取材した長篇喜劇、それから「源氏物語」の戯曲化。

二、全劇壇から俳優をピックアップして演りたいと思ひます。

三、遺憾乍ら。

秋月桂太

一、執筆中のもの「ふるさとの春」農村の土地制度を取上げました。別にやはり農村のもので「八人の子供」考へてゐます。

二、今更新進作家では不滿かもしれませんが、梅本重信を押します。近作「二重奏」に敬服してゐます。

藤森成吉

一、岡倉天心を主人公とする脚本、(執筆中)。

二、三、四年前より前進座にたのまれてゐる仕事です。

三、有馬頼義君(すでに無名作家ともいへませんが)。

飯澤匡

前略　目下急性肺炎餘後療養中に付き、創作の豫定は皆目見當つきません。以上御返事迄。

お愛さんの舞をほめる

高安吸江

今から七八年前、百二歳で逝くなつた片山春子刀自が眼の中へ入れても痛くないといふ程可愛がつた弟子で、今は刀自の令孫九郎右衛門夫人である井上流舞の家元愛子さんが幼い時、祇園の名手を與四郎、次郎作にして鴛鴦の禿を勤め、スツカリ此兩人を喰つてしまつてエライ評判になつたが、今はもうこの話を知つてゐる人はあまりないでせう。

私が師匠の舞を拜見してから隨分久しうなるが、特に深い印象を得たものゝ一つに三番叟があります。朗かで輕く、まじめの中に狂言風やおかしみがあり、上品でしかも軟く、艶氣はあるが嫌味はない。さすがにお能の影響をうけた流儀のコツをよく呑込んだものと感心させられましたが、一般に言へば師匠の藝はどうしても三番の方で、まだ翁役者とは言ひ難かつたのです。

近年殊に戰時となつてからは殆んど拜見出來なかつたが唯一度しかも素晴しいものを見る機會を得ました。それは大阪の衛戍病院に娯樂室が出來た時の事で、其舞臺披きに東西三都の競演がありました。先東京から藤原義江等、大阪から長三郎、瓢雀京都からは愛子さんの一黨といふ取合はせで、當時の師團長李王殿下は、妃殿下御同伴で臺覽遊ばされましたが、成績としては確かに京方の勝で、それも師匠が舞ふた皮肉な長刀の八嶋の美事な出來榮によつたのは言ふ迄もなく、殊にその美しい裾さばきや、奇麗な足どりがズバ抜けて効果的であつたのは疑ふべくもありません。近く斷絃會で鐵輪や道成寺が演ぜられると聞いたが、形の美しさや振の鮮やかさは別として、丑の時詣や、嫉妬の鬼の役は師匠の藝格から見てかなり距りがあると信じます。

私はまだ流儀の道成寺を見ませんが、假に是までよく出る娘道成寺の型に近いものとすれば蓮葉な都育ちの「戀の手習」よりは無邪氣な京娘の輕妙な手毬つきや、山づくしの方がよく適つており、更にまたそれよりも鐘の段で含蓄に富んだ妙趣を示されることゝ想豫されるのです。

しかし私がこゝで特に言ひたいのは最近新門前の稽古場で拜見した數番の中、颯逸、簡明、そして素朴でありしかも優雅な楠取が殊に傑作で、あつたことで、師匠が三番時代から翁の域へ進む新階段に入つたのを物語るものではないかとさへ思はれ、私は此上もない欣びに浸り得たのです。私は此後ともに愛子さんの圓滿な發展を衷心から祈つてやみません

古靴の「宿屋」

武智鐵二

八月の文樂座で十數年ぶりに古靴太夫が朝顔話の宿屋の段を語つてゐる。この前の時の演奏中では、川越人足の「笑止々々」の、只一通りの氣の毒がり、といふ氣味の言ひ廻し――この人足達は當然朝顔をよく知つてゐる筈なのだ――が面白かつたのを記憶してゐるのみだが、今回聞いてみて、決してそれだけの安穩なものでない事が、はつきり判つた。その足取と情合と呼吸との特異なことは、他の人達の語る宿屋の通念を蹴とばす底のものであつた。例へば「秋月の娘」と語つて、大きな間を置いて、その間呼吸を耐えて、グツと肚でしめて「深雪は」とウレヒの氣味で出た處などは、もう我々に深雪といふ性格の實在性に少しの疑念を挿む餘地すらも與へないほど、漲溢した藝力を感じさせた。この深雪の出の足取は、まことに特殊なもので盲目の足取から情合をさぐりあてゝゐたのは、模倣の主知と感情移入の主情とのたくましき揚棄と稱すべきであらう。

全段を通じての、足取と間との註文はまことに異樣なまでに緊迫したものであつたが、一々記すいとまはないから、茲には割愛する。他には「昔の人の筆の跡」のハルギンから、一つづゝ譜を辿つて二のマギンへ落ちて行く音遣ひの叮重さ、その技法の完成さに刮目した。この音のつかひ分けから、今昔の感を通じて、旅愁にまでこのまくらを導いたこの人の宿屋は、恐らく摂津大椽以來の宿屋であつたと斷言してよいであらう。琴唄の「てらす日かげ」をうれひの心持で語つたのも、演奏者朝顔の心境から見て當然である。「なう川越達々々々」と二つ重れていふうまさよりも、その言ひ方から川越が朝顔の近くに居る事を表現して、從來の大河を隔てゝ人足と怒鳴り合ふやうな誤つた解釋を是正してゐたのも感服した。これで「オ、朝顔、とやら」を「オ、、朝顔とやら」と切り方を改めると申分ない。けだし駒澤の哀れむのは深雪であつて、朝顔ではなく、「オ、」と「朝顔とやら」との間には「可哀さうな深雪よ」と心の中で抱きよせる間があるべきだと思はれるからである。

德右衛門の切腹を削つたのは愚劣だ。といふのは、この切腹が奇蹟的によく効く藥を合理化して、戲曲に現實性を附與するための技巧であるから、では決してなく、義太夫節は正に古典藝術であり、古典の殿堂性は絶對に保持さるべきであるからである。藝術家も興行主も取締者も、この點に深い反省を致して、嘲ひを千載に殘さぬやうにせねばならぬ。

――四六・八・二〇

万佐世、猶義兩氏に

沼艸雨

終戰による虛脫狀態をあらゆる面でいやといふ程見聞して來たが、梅若万三郎氏沒後万佐世、猶義兩氏の藝にそれらしいものを感じて慄然とした。

万佐世氏のは放送であつたか、これは父翁沒後旬日位たつたと思ふ、曲は角田川で偶然ではあつただらうが、私は世阿彌が早世した十郎元雅を偲んで慟哭したであらう事等思ひ出されてそゞろ泪ぐましくなつた。そしてその演奏たるや實に生硬、低調で不覇奔放の万佐世氏の日頃を知る私は唖然とした。加ふるに地謠一同も全く無氣力、師父の死の心理的打擊の如何に大なるかを示してゐた。

約半月後に猶義氏が大阪と京都で「三井寺」「松風」「正尊」を舞つた。「三井寺」は令兄の折と同じく無感動でたゞ型を演じてゐるといふのみで少しも人間性といふものがなかつた。

天下一を許されてゐた万三郎氏の大きな庇護を失つたとするとかうまで變るものかとそゞろ暗然とした。そして若い二人がこんなことでどうなるかといふ焦燥を感じた。しかし猶義氏については後日の「松風」でやゝ平調に復した。氏の得意の曲ながら少しも派手にならず、型通り本格的の行方で、今迄はともすれば万三郎氏の皮相をねらつての匠氣が見へたが、そんなものが少しもなく、謙虛な出來であつた。だがこれは私の善意の解釋で、氏にして若し、万三郎といふ大きなバックを失つた爲めの藝の卑屈だつたら問題外でこれは嚴として戒めねばならぬと同時に私の想豫通りであらうと信じてゐるその證として次の「小鍛冶」の黑頭は思ひ切り舞つて、いつもの生地が現れる所もあつたが此の曲らしい味は充分に發揮されて、寧ろ雛子方の力不足が惜しかつた位であつた。

其の後の兩氏の舞臺には接しないが、もう恐らく平靜に戻り、本道邁進をつゞけつゝあるものと信じるが、流儀の中心勢力たる責任のある兩氏が徒に悲愁に顚倒して父君の名を傷ける事なく、兄弟相協力して名をなす事こそ万三郎名人なりの終止符たるものである。それは傳承藝術に就ては殊に後繼者を作り得てこそ名人といはれるのである。万六兄弟に於ける實、野口松本に於ける九郎金太郎に於ける伴馬、皆然りである万三郎氏の基本的訓練を受けてゐる兩氏はこれを生かして謙虛であると共に、一路天馬空を行く慨の氣魄を以つて將來の能樂を脊負つてもらひたいと念じてゐる。

「肉体と幻想」評

林　秀雄

待望のデュヴィヴィエ監督の「肉体と幻想」封切第一日を見る。往年の「舞踏會の手帖」「望郷」の再上映が利いてか酷暑も吹飛ばず超満員だつた。觀終つてから先づ感じた事は觀衆が此映畫をどんな風に評價するかといふ點である。といふのは最近紹介された新星クリア・ガーソンやイングリット・ベルクマン等に對するファンの憧憬と過日封切のルビッチ監督の「天使」の一般的不評とを思ひ浮べてであつた。

「肉体と幻想」を構成してゐる三篇の挿話の内、曲藝師と女スリのプレンソーダの味の樣な第三話だけが明るいもので他の二篇は舞臺劇的なそして相當陰影の濃い内容と形式とによつて構成されてゐる。そして長さの點では一番短い第一話が自分には一番氣に入つたし、デュヴィヴィエも力を入れてゐる樣に思はれた。定石的の解釋をすれば原作者三人の一人、オスカー・ワイルドは此第一話の作者である樣に思はれる。

謝肉祭の夜、假面を被つて踊る貧しいそして醜い女の奇蹟をデュヴィヴィエは鮮かに且力强く描寫して餘すところがない。此物語で重要な役割を果たす假面を賣る店のセットの素晴しさには感心した。そしてラストに至つて此セットが極めて効果的に使はれてゐたし、ライトの工合も第二話でのロンドンの霧の夜の撮影と共に美事であつた。ベッテイ・フイルドの娘は假面を脱がされるところなど巧みなメーク・アップで好演だし、相手役のロバート・カミングもス鈎合がされてゐる。

第二話の手相見の話では俳優エドワード・ロビンソンとトーマス・ミッチエルの芝居が面白い。比較的單調な内容を優れた伴奏音樂とを驅使してぐん〳〵引張つて行く手際は鮮やかであつた。手相見が霧の夜の橋上で絞殺されるラスト・シーンは撮影効果が物を言つて印象的である。

第三話のボワイエとスタンヴィックの洒落れた話は前二話との對象の心よさは確かに感じられる。此話では二つの夢が取入られてゐるが其内女がスリとして捕はれ手錠をはめられて行く夢は底を割る樣な氣もして無くもがなと思つた。併しスタイルの點では此第三話が隨一であらう。

以上、藝術價値から言つては勿論「舞踊會の手帖」に一籌を輸するけれども俳優の手揃ひ、カメラの素晴しさ、伴奏音樂の優秀性と三拍子揃つてゐるので一時間半を樂しませて呉れた。

編輯後記

◉常に藝能文化に多少共關心を有する吾々は、其形の大小は別として何か一つの發表機關を持たれば何かしら心の餘裕と言つたものを保つことが出來ない樣に思はれて仕方がない最近自分は幸ひにして大阪で唯一の眞摯な藝能研究雜誌の編輯同人の末席を汚させて頂く事になつて居たが色々の事情で該誌の發行が不能となり、一寸何か落し物でもした樣な氣持になつて居た。ところが急に此の「觀照」誌の發刊を思ひ立ち、先輩友人の御助力で兎に角第一號を曲りなりにも作り得た事を望外の喜びとしてゐる。いろ〳〵の點で好條件に惠まれたので僅か十日間で出來上つた事は感謝の外はない。殊に高安先生には御無理をお願ひして玉稿を頂いた。

校正を急いだので誤植の多い點は深くお詫びするとして、第二號からはよりよいものとして續刊する意氣込みであるから大方の御後援を切にお願ひする次第である。

◉「觀照」といふ言葉については何誰かにお願ひして玉稿を頂く心算であつたが間に合はなかつた。「觀照」といふ言葉には含蓄の深いものがある。即ち此言葉には「觀賞」といふ以外に考へる事と知る事との意味がある。此二つの事が藝能文化の觀賞には最も必要であり、且重要なる意義を有する。吾々は「觀賞」から「觀照」の域に到達する事を常に念頭に置いて藝能に接せねばならぬ。

◉關西の藝能界殊に演劇方面の最近の沈滯はどうした事であらう。關西劇界の危機を救ふたけの才能と氣力を有する有能の士の出現を待つ外はない。當事者の自覺は今更喋々する必要もないが俳優連中の奮起も同時に必須である。

九月上場の「染模樣妹背門松」に一應其上場の價値と意義を認めるものゝ其臺本の整理といふ點に少からざる危惧の念はある。

◉新秋ともなれば藝能界は益々活氣を呈する事と思はれる。本紙も號を追ふに從つていろ〳〵の企劃を實現したいと思つてゐる。

（林　記）

觀　照　第一號

昭和二一年八月二〇日發行

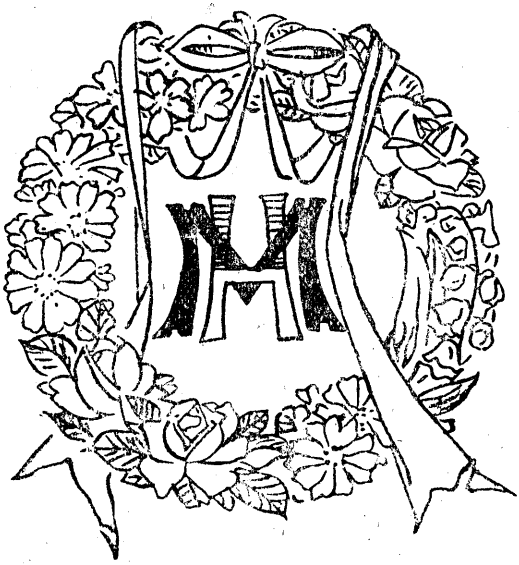
編輯
發行　林　秀雄
印刷

大阪市東區道修町二ノ一一

林　秀雄方

發行所　觀　照　社

頒價送料共　二　圓



花輪印

純正分析用試藥

株式會社 林藥店

大阪市東區道修町二丁目十一番地

電話南一五七九番